

定期総会に出席して

木下秀男（高2）

飯田市『お練り祭り大名行列』が名古屋のホテル内で晴れやかに再現した。6月11日昼過ぎ、平成29年度定期総会のアトラクション。掛け声も勇ましく、15人の保存会メンバーが演技を繰り広げた。

いかにも重たそうなボンボリはじめ、衣装箱、番傘など、添え物は正規行列のほんの一部だったが、久しぶりに見る名古屋の私たちの目を魅了。保存会伊坪弘年さんの適切な演技説明が、取り巻く会員をうなづかせていた。

前回の東京会場に続く名古屋での総会、地元中京支部からも会員多数が出席し、総勢230人を超える盛会となった。これは、力強く活動を展開している我が同窓会の今日の姿を示すものであり、ここまで築き上げてきた先輩たちの努力の結晶といわねばならない。そして実行委員会の陰の貢献。

新しい役員が紹介され、事業計画、予算と新しい運営体制が整った。私はこの内容を拝見して、私なりの感慨を持った。『ますます体制が確立した』と。

それは、もう10年になると思うが、本部と支部の連携体勢などについて首都圏支部が問題を提起。改革するための特別委員会が設けられたことを思い起こしたからである。

私は当時、中京支部長だったが委員として会議に参加した。改革案を総会に諮り、いくつかの新しい内容が盛り込まれた。中京、関西から理事を選出する提案も採択された。こうして同窓会会則一部改訂が成立した。

話を定期総会に。村田宣政さん(高21回)の講演は、実業家の実務の話として拝聴した。懇親会での交流で旧交を温め、校歌・応援歌を合唱。母校の歌はいつ歌っても、少年時代の夢を呼び起こしてくれる。

追伸

中京支部の名古屋で定期総会を開催していただき、感謝のほかはありません。役員さんと実行委員さんのご努力に敬意を申し上げます。

思いつきで原稿を書きました。ほかの方の提稿とダブリましたら、私には破棄してください。

中京支部 木下秀男（高2）